

1 学校教育目標
(1) 確かな学力を育成し、自己実現を図る態度を育む。 (2) 道徳性と豊かな情操を育む。 (3) 心身の健康を自己管理する態度を養う。

2 本年度の重点目標
<p>【確かな学力・自己実現を図る態度の育成】</p> <p>(1) 主体的・対話的で深い学びの中で、思考力、判断力、表現力を育む。 (2) 基礎・基本を定着させ、一人ひとりに応じた教科学習指導を行う。 (3) 望ましい勤労観・職業観を育成し、一人ひとりに応じた進路指導を行う。</p> <p>【道徳心と豊かな情操】</p> <p>(1) 自分の大切さとともに他の人の大切さを認める態度を育む。 (2) 規範意識を身に付け、善悪を判断し、自ら律する力を育む。 (3) 我が国の伝統と文化を尊重する態度とグローバルな視点を育む。</p> <p>【心身の健康の自己管理】</p> <p>(1) 正しい食習慣と生活習慣を身に付けさせる。 (2) 運動に親しむ態度を育み、体力を向上させる。 (3) 危険を予測回避する力を向上させる。</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	三課程 (全定通) 運営と学校経営の整合性を図る	本校のスクールアイデンティティが三課程で共有化されているか。課程間の情報交換が、継続的に図られているか。より良く改善が進められているか。	教務・進路・生徒指導部の情報の共有化および連携の強化を図る。三課程での研修を年に 2 回開催。	・三課程教頭間で定期的に情報交換する。 ・3 課程で研修を企画する。	B	<p>(成果)</p> <p>・校内行事については、他課程と競合なく、実施できた。</p> <p>(課題)</p> <p>・コロナ禍であり会議を行う際も、3密に注意するため大きな会議室が必要であり、会場確保に苦労した。</p>
	適応指導の充実	学年及び関係する分掌部が連携して具体的な取組が進められているか。	新入生への年間を通じた適応指導の充実。1 年生の転学・転籍・退学者数割合 12% 以内。	・ソーシャルスキルトレーニング(SST)の実施 ・生徒理解研修の充実 ・学年や各分掌部が問題行動のある生徒や不登校生徒に対して、担任だけに任せず、組織を上げて対応する。	B	<p>(成果)</p> <p>・SSTを年 4 回実施した。活動に積極的に参加する姿が見られた。 ・学年会で課題を抱えた生徒の情報共有を行い、対応について話し合うことができた。 ・長欠の生徒を担任まかせにせず、学年で協力して対応できた。 ・12月現在、7%程度の生徒異動であり、生徒指導において「認め・褒め・励まし・伸ばす」教育が実践されている。</p>

						<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対人関係に課題をもつ生徒のグループ活動の状況を把握し改善策を講じる必要がある。 ・3学年になっても進路変更する生徒が5名出た。
	働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間内に仕事を終わらせようとする意識を持っているか。 ・優先しなければならない仕事と時間をかけてよい仕事を整理して業務に当たっているか。 ・会議の削減に努め無駄を省き、所要時間の短縮に努めているか。 ・課題を一人で抱え込まず学年や管理職に相談しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員の1か月の在校等時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が、45時間を超えない。 ・全職員の1年間の在校等時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が、360時間を超えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は勤務時間に仕事を終わらせることを意識して業務を行う。 ・仕事の優先順位を付け、計画的に業務に当たる。 ・会議は必要に応じ開催し時間をかけないことを意識する。 ・一人で問題に対処せず、学年、管理職が支援し組織として対応する。 	B	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全職員が年間360時間を超えないよう早く帰宅するなど、休める時は休む傾向が強くなり見られるようになった。 ・運営委員会の実施回数を減らすとともに、学年会の開催を2週間に1回とした。生徒の情報共有もできており、回数削減による支障はでていない。また各分掌部からある程度方向性を持った提案がなされ、スムーズな会議が実施された。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査書の様式が変更になり、書く分量が増え、進路指導部及び3年担任の仕事量が増えた。また県教育委員会が、ICT教育日本一を掲げていることもあり、ICT担当者の人員増、担任副担任の業務配分など、次年度は職員の仕事量の配分を検討する必要がある。
学力向上	主体的・対話的で深い学びの中での思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたって探究を深める未来の創り手を育てる授業となっているか。 ・各教科・科目等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解した 	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニング型授業を実践している職員の割合が90%以上。 ・その他のも生徒の思考力、判断力、表現力を伸ばす活動を取り入れた授業の 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業・研究授業を実施する。近隣中学校からもアドバイスをいただく。 ・大学入学共通テスト対策を意識し、定期考査に思考力・判断力・表現力を試す問題を 	B	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学びのUD」を取り入れたこともあり、教師指導型の授業から生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばす活動を取り入れた授業変革が見られる。

		り、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたり思いや考えをもとに創造することに向かう過程を重視した授業となっているか。	実施率が90%以上。	入れる。		(課題) ・公開授業及び研究授業を実施したが、例年より校内職員の参加が少なかった。 ・コロナ感染防止のため、外部へ公開授業の案内ができなかった。
	「学びのユニバーサルデザイン」の構築	多様化する生徒のニーズに応じた授業改善ができてきているか	ユニバーサルデザインの見点を取り入れた授業の実施率80%以上。	・学習の環境の整備を始めとする基礎的環境整備の充実を図る。 ・県立教育センター指導主事等のアドバイスを踏まえ、ユニバーサルデザインの見点を取り入れた授業を実践する。 ・基礎学力及び学習習慣の定着。	B	(成果) 各教員が「学びのUD」の研修と実践を通して、プロジェクター等を活用するなどして、生徒にとって分かりやすく、ためになる授業にしようとして努力している。特に授業開始時の「目標と流れの提示」や視覚情報の提示はスタンダード化できた。 (課題) 6月と12月にアンケートを実施したが、生徒の回答に大きな変化は見られなかった。生徒の意欲を高め、理解を促す授業研究を次年度以降も引き続き行う必要がある。
	「通級による指導」	小中学校等からの学びの連続性の確保と多様な学びの場が整備されているか。	「通級による指導」の授業(自立活動)を受けて良かったと回答した生徒が80%以上。	・「通級による指導」開始時点での生徒のニーズを把握。 ・1年間の長期目標とともに、当面の短期目標を定め、指導のねらいの明確化。 ・教職員全員が「通級による指導」を理解し、支援し、他教科の授業においてもその指導方法を活用する。	B	(成果) ・受講者2人の授業アンケートで「授業を受けて良かった」と2人とも回答した。 ・公開授業週間に伴い、研究授業を実施した。 (課題) ・今年度の受講生徒は3人(3年2人、2年1人)、うち1人が年度途中で進路変更。 ・職員研修を実施することができなかった。次年度は何らかの形で実施したい。

	単位制の特徴を生かした教育課程の検討	学校の教育目標を踏まえたカリキュラム・マネジメントを推進しているか。	授業を精選し、新旧のカリキュラムの授業をどのように開講していくか、「教育課程検討委員会」を月1回開催する。	・教科等の目標や内容の見直しを行い、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の育成を図る。 ・教育内容や教育活動の質の向上を検討する。	B	(成果) ・教育課程検討委員会を20回以上実施した。 (課題) ・本校入学者減による職員の2名削減に伴い、生徒のカリキュラムの選択の幅が狭くなっている。(普通科の生徒が商業科目を受講できないなど。)今後更なる入学者減による職員減が続けば、本校の特徴を生かした教育課程が組みなくなる恐れがある。
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の推進	多様化する社会構造を踏まえ、社会的・職業的自立に向けた能力・態度が育成されているか。	進路講話・職場見学・進学ガイダンス・ボランティア活動を通して、具体的イメージ(職業観)を持った生徒が80%以上。	・外部機関が主催する事業や地域・保護者及び産官学との連携をはかり、校内の取組を連動させて実施する。 ・キャリアパスポート記入を通してPDCAサイクルの確立を図る。	B	(成果) ・中小企業の社長によるオンライン面接指導等を行うことができた。 ・外部機関と連携を図り、実施できなかった行事の代替行事を実施できた。大半がオンラインでの実施だったが、大部分の生徒が「職業に対する理解が深まった」と評価した。 (課題) ・コロナ禍で当初の計画通り進まず十分な指導が行えなかった。 ・職員、生徒にキャリア・パスポートの大きな流れは伝わったと思われるが、今後さらに改良が必要である。
			インターンシップを通して、働くことの意味や意義を考え、将来の進路目標を定めた生徒が80%以上。	職業講話等の事前指導、事業所との事前の打合せや、礼状の送付等を含め、活動の全体で大きな学びが得られるようにする。	C	(成果) ・インターンシップの代替として、職業講話を実施した。事前に質問事項を考え職業に対する意識を高め臨むことができた。 (課題) ・インターンシップが実施できず、

						今後生徒の職業観を高める活動内容を充実していく必要がある。
			働くことの意義を理解するとともに自身の将来像を現実的にイメージし、行動に移す生徒が80%以上。	進路・就職ガイダンスへの積極的な参加を通して、望ましい職業観を形成し、進路実現につながる積極的かつ具体的な学習に取り組ませる。	C	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ガイダンスや講話をとおして働く意義等、今後の進路実現につながる示唆をいただくことができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 直接働く体験の機会が少なく、生徒が進路実現に向けて具体的な行動に移すまでには至っていない。 コロナ禍でオープンキャンパス等が中止になり、オンラインで行えるものはできるだけ行ったが、生徒が合格のための対策(筆記試験・面接)を積極的にできなかった。
進路目標の達成	個に応じた進路指導の推進が進路目標の達成につながっているか。	進路希望調査・適性検査などを通して進路目標を設定した生徒が60%以上	<ul style="list-style-type: none"> 二者面談、三者面談、進路部面談等を計画的に実施するとともに、各種調査結果などを活用して、生徒の自己理解に生かす。 ポートフォリオ記入を通して、日頃から自らの活動を振り返る習慣を付けさせる。 	B	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 3学年部・進路部の個に応じた丁寧な進路指導で、多くの生徒にとって、後悔の無い進路選択になっている。 自分自身を振り返る時間を例年より多く取ることができた。 二者面談・進路希望調査等で生徒や保護者の考えを知ることができた。ポートフォリオの記入も定期的に行うことができ、生徒も活動を振り返る機会となった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自身が自分自身を振り返る習慣付けが必要である。 得られたデータをもとに、生徒の能力を活かせるよ 	

					う、検討会を設ける必要がある。生徒の活動場面の設定を意識して業務に当たる必要がある。
		基礎的な学力の向上を図るとともに、進路情報の提供と進路別学習機会の充実に努め、生徒の進路選択の幅を広げられているか。	学校評価生徒アンケートで、学校が進学や就職に関する情報や資料を提供しているかと回答した生徒が80%以上。	<ul style="list-style-type: none"> ・「高校生のための学びの基礎診断」を活用することで、個に応じた学習指導や進路指導を行う。 ・学びなおし教材を1年生の授業で活用する。 ・模試、進路のしおり、進路情報誌、進路ガイドダンスなどの活用を勧める。 ・ICTを活用した情報収集や学習、情報の受発信ができるようにする。 ・キャリア別終礼・進路検討会等を定着させる。 ・入試制度改革に伴う職員研修を充実させる。 	<p>B</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学びの基礎診断」を全学年で実施し、診断結果の活用の仕方について職員研修を行うことができた。 ・学校説明会やオープンキャンパスWEB面接対策講座等、徐々にICTを活用した諸活動に取り組む生徒が増えた。 ・キャリア別終礼は役割分担を行い4回実施することができた。 ・進路検討会を適切なタイミングで実施し、3学年・進路部で共通理解をした上で進路指導にあたることができた。 ・新調査書に関する職員研修を実施して変更点等を全職員で確認することができた。また今年度の取り組み状況から考えられる問題点を挙げ、次年度以降の作成方針を決めた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験の受験者が少なかった。 ・生徒や保護者に向け、基礎診断等を活用した適切なアドバイスができていない。 ・基礎学力が不足する特性のある生徒の学力向上を図る効果的な方策を検討する。 ・受験後の復習プリント、添削指導の機会を設け、ステップアップに繋がる指導が必要である。次年度スム

						一ズに実施できる よう過去の資料等 を保管しておく必 要がある。
生徒 指導	基本的生 活習慣の 確立（特 に時間を 守る取 組）	生徒が健全に社 会に適応できる 生活をしている か。	・整容検査で 合格する生徒 が90%以上 ・遅刻数が年 間月平均15 人以下。	・整容検査を 事前に周知し、 自ら身だしな みを整える力 を付ける。	B	（成果） ・整容検査で合格 する生徒は90%を大 きく上回ることが できた。 （課題） ・違反を繰り返す 生徒にどう指導す るかが課題。 ・遅刻数が月平均 15人以下は達成で きていない。生活 習慣だけの問題で はなく特性の問題 もあり、特定の生 徒の遅刻がなかな か直らない。
	理性的態 度と道徳 的実践力 の育成	規範意識の高揚 、友愛・連帯の 精神を養おうと しているか。	・生徒総会を 年間1回開 催。委員会活 動を年間2回 以上開催	・生徒総会を 実施し生徒の 自主性を伸ば す。 ・委員会活動 を2回以上実 施することで 委員会活動の 活発化を図る。	A	（成果） ・総会に向けて、 また、総会后、ク ラス内で問題点等 ついて話し合うこ とができた。 ・生徒総会を実施 し、各クラスから の意見に丁寧に回 答した。 ・保健委員などは 特に活発に活動し た。 （課題） ・あまり活動がな い委員会をどのよ うに活性化させる かが課題。
	自他を尊 重し、互 いに協力 する態度 や遵法精 神の育成	生徒同士が互い を尊重し、協調 しながら生活す ることができて いるか。	特別指導を繰 り返す生徒の 数を昨年度よ り減少させる。 。	・特別指導を 繰り返さない ように、継続し て指導を行う。 ・SSWやSCと 連携を図る。	B	（成果） ・特別指導の件数 も繰り返す生徒数 も減少した。 ・特別指導を受け た生徒に全員SS W、SC面談を受 けさせ、ほとん どの生徒が受けて良 かったと答えている。 ・他者の気持ちに 配慮するのが苦手 な生徒や、自分の 状況を客観的に見 ることが苦手な生

						<p>徒へ個別指導をすることで、昨年度よりは不適切な書き込みの深刻度や頻度を減らすことができています。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生の問題行動が目立った。2年、3年生は落ち着いている。 ・問題行動を起こす生徒の影響で、転校する生徒がいる。 ・SNSへの不適切な書き込みを0にすることができていない。
	交通安全意識の確立、交通法規の理解と交通マナーの向上	交通事故・違反が減少したか。無施錠自転車が減少したか	昨年度の交通事故発生件数からの減少と二重ロック100%達成。	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教育講話の実施と、交通委員会の活動の充実を図る。 ・二重ロック及び無許可自転車指導を徹底する。 	B	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスによっては二重ロック100%を達成した。ステッカー貼付100%も達成した。 ・交通安全教室を2回実施し、交通安全について考えることができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年に比べやや事故数は減少傾向にあり、二重ロックは改善傾向が見られるものの、今年度の交通事故数は9件と依然事故が多発しており、目標達成のレベルまでには至っていない。
人権教育の推進	研修の充実と職員の人権意識の高揚	教育の根幹に人権尊重を捉え、すべての教育活動において人権教育の推進ができているか。	教職員が人権尊重の理念を理解し、全ての教育活動において推進できるように、一人1回の校外研修を受講する。	計画的な研修による学び合いを通して、人権意識の高揚を図り、人権尊重の理念についての認識を深めるとともに実践的な指導力を育む。	C	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修は、先生方の協力により意見交流を通じて人権意識の高揚が図れた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外研修は中止や延期のため、目標であった一人1回の参加ができなかった。
	人権の重要課題の学習	人権課題を自分の問題として考える学習になったか	人権教育LHRを企画する	・学年の担当者と推進委員を中心に、全職		<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的に人権教育LHRを実施でき

		ているか。	「校内人権教育推進委員会」を毎月最低1回は開催し、これまでの積み上げに留意しつつ改善を進め、生徒の主体性を育む。	員が組織的に取り組める指導案の作成・意見交流を通して主体的に学びを深めるLHRの実施。	B	た。生徒の理解も9割を達成した。 (課題) ・人権教育推進委員会は毎月1回は開催できなかった。
	命を大切に する心を 育む指導	人権尊重の精神に立った学校づくりが推進されているか。すべての教育活動の中で、「命を大切に する心を育む指導」の視点に立った教育実践がなされているか。	すべての授業の中で命を大切に する心を育むテーマの授業を年に1回取り 入れる。	・生徒が多様な学びの中で自他の特性を自覚し主体的に学習に取り組める授業の工夫・改善を行う。(生徒理解研修) ・共感的人間関係を育成する支援の推進(面談・家庭訪問)	B	(成果) ・年度当初、各学年、各部、各教科で協力して年間計画を作成し、実践できた。 ・職員の協力により生徒理解研修や面談を実施できた。 ・全校生徒で人権作品応募に取り組めた。 (課題) ・自転車へのいたずらやSNSでの他人への暴言等があり、他人への思いやりに欠ける行動が見られた。
いじめの防止等	いじめ防止対策委員会を核とした職員間の連携	学級・学年・各分掌部などにおける連携が成されているか。小さないじめを見逃さない初期対応ができているか	・いじめ解決100%を目指す。 ・初期対応を速やかに行う。	・いじめ問題への対応マニュアルの職員への周知を図り、全職員で共通理解と防止に取り組む。 ・いじめ防止LHRを実施する。 ・心のアンケート実施後、または、いじめが疑われる事案を耳にしたら、速やかに担任は生徒への聞き取りを行う。	C	(成果) ・生徒が教師に相談しやすい学校の雰囲気もあり、職員が生徒からの情報に速やかに対応し、大きな問題に発展することがなかった。 ・定期的なSST実施もいじめ防止に繋がった。 (課題) ・普段の言葉遣いにも気を付けさせる必要がある。 ・周囲の生徒の暴言や学習環境の悪さを苦に、進路変更をする生徒もおり、他人を思いやる心の育成が必要である。

心身の健康	望ましい生活習慣の定着化を図る。	自分の生活習慣に関心を持ち、行動変容への意欲を高められたか。	自分の生活習慣に関心を持ち、改善していこうとする生徒が80%以上。	保健だよりを毎月作成し、望ましい生活習慣について啓発を行う。	B	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防も含めた生活習慣変容について保健だよりと健康リズムを発行し啓発を行った。 ・マスクはほとんどの生徒が着用するようになった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部の生徒に生活習慣が定着できず、不登校や遅刻を繰り返す生徒がいる。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	熊本地震を教訓として、災害時の地域との連携体制の構築や防災教育の充実	学校運営協議会を通して、関係機関と連携しながら、防災体制の整備が進むとともに防災教育の充実が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・スモール訓練を3回、避難訓練を1回実施。 ・熊本シェイクアウト訓練を1回実施 ・ぼうさい通信の毎月の発行 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を開催し、各委員に御意見を伺いながら、地域防災や防災教育についての取組を充実させる。 ・避難訓練の実施や「ぼうさい通信」の発行により、生徒の防災意識を高める。 	A	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響でスモール訓練を実施できなかったがシェイクアウト・訓練や安否確認訓練を代わりとして実施した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三課程防災訓練において、初期対応の改善を指摘された。
開かれた学校作り	広報活動を効果的に実施しているか。	広報活動を効果的に実施しているか。	ホームページの速やかな更新。	<ul style="list-style-type: none"> ・体験入学や中学校説明会、中学校訪問を充実する。 ・湧水(学年広報誌)を二ヶ月に一回配付する。 ・学校HPを速やかに更新する。 ・安心メールを活用する。 	A	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度はホームページの速やかな更新ができた。 ・湧水を発送し、学校の行事・生徒の様子などを保護者に紹介した。 ・学年の安心メールを毎週送信しており、学年の取組を生徒や保護者に周知できている。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者が郵送物を確認されない場合がある。安心メール等で湧水発送の件について配信する。
	地域社会に学校をPRしているか。地域に貢献しようとする生徒の態度が育っているか。	地域社会に学校をPRしているか。地域に貢献しようとする生徒の態度が育っているか。	昨年度に比べ、ボランティア活動への参加の増加。	校内や地域のボランティア活動に意欲的に参加する。	A	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア部がくま川鉄道復興募金活動及びチューリップの球根植えを行った。 ・多くの生徒が人吉等への被災地で行われたボランテ

					イア活動に参加した。 (課題) コロナの影響により地元の祭り等が中止となり、ボランティアへの参加機会が減った。
--	--	--	--	--	---

4 学校関係者評価 ○退学者を10%以内に抑えてもらいたい。生徒が自然と学校に足が向くような雰囲気作りをお願いしたい。 ○少子化の影響により生徒減となっている。本校の存在意義を確認し、宣伝も必要である。 ○ある高校では座禅をさせ野球部が1位となった。精神面を高めれば、今よりも成果が出るのではないか。 ○働き方改革において、職員の健康が一番である。職員からの相談を受け、職員の悩みを解消してもらいたい。
--

5 総合評価 ○本校情報処理科では資格を取れるので、就職の際に有利となることを宣伝したらどうか。 ○本校は「学びのユニバーサルデザイン」の研究成果が出ている。学校評価アンケートで「授業中に先生方から褒めてもらえるか」との質問があり、素晴らしい。自己判断力や自立心を育ててもらいたい。 ○高校生の自殺が前年度比2倍に増えている。いじめを早期に発見し解決すべきで、いじめによりうつ症状が出れば手遅れである。授業中でも、生徒の様子を観察し、元気のない生徒への声かけをお願いしたい。

6 次年度への課題・改善方策 ○生徒理解研修を行うなどして、生徒の特性を理解し、退学者の減少につなげたい。 ○学校前の掲示板で、本校の成果をアピールしたい。 ○働き方改革において、長時間勤務している職員の負担軽減のため、校務分掌の見直し、業務量の軽減など、見直しを進めたい。 ○いじめ対策において、生徒の表面的な面だけを捉えるだけでなく、保護者との連携を深め家庭の様子なども把握し、早期の対応を心がけたい。
--